

平成23年10月9日

菊川広之

Inline-Alpin-Slalom-World Cup に参戦して

平成23年9月11日に **Inline-Alpin-Ski** の **World Cup** に参戦してきました。今回、日本からは、INSA 海野会長、チームキャプテン山川さん、学生の大淵さんと自分が大会に出場し、パワースライドの高井さんがコーディネーターとして参戦しました。本当に、最高の **World Cup** でした。

平成23年3月11日に発生した東日本大震災に係る災害復旧のために義援金活動、ボランティア活動は、非常に重要なことであると考えています。私もできる範囲で活動していきたいと考えています。また、私自身、一人一人が何かにチャレンジすることで日本が元気になるのではないかと考えています。そんな中、私は、インラインスキーの分野では、ナショナルチームの選考会にチャレンジすることを決意しました。平成23年5月21、22日にナショナルチームの選考会が行われ、ナショナルチームのメンバーに選出されました。次に、自分自身の目標が **World Cup** 参戦という大きなものになったのです。しかし、インラインスキーのアルペン自体は、本格的にはトレーニングしたことがなく、力ない自分をはたして **World Cup** 参戦して大丈夫なのだろうか？という不安な気持ちもありました。そんな中、全日本インラインスキー連盟のナショナルチームの強化合宿が福島、安比で行われ、色々な方にコース整備、アドバイス等のサポートをして頂き、**World Cup** のスタート台に立てるかも知れないと思えるようになりました。いや、「ありがとう」の感謝の気持ちを持ってスタート台に立とうと思いました。練習漬けの週末が続く日々、遂に、チェコの出発日がやってきました。

チェコは、ロシアーオーストリアを經由して入りました。大会スケジュールは、次の日程で行われました。

9月9日（合同練習）

9月10日（**International Cup**）

9月11日（**World Cup Final**）

合同練習では、世界のトップの選手と同じコースで練習することができました。私自身、技術的に参考になる面も多々ありましたが、そのレベルの差に圧倒されて普段の自分の滑りさえできず、4本中2本転倒する状況でした。**International Cup**、**World Cup** は、第1の目標として完走することを掲げて滑りました。**International Cup** の最初の1本目は、ス

スタート台に適應できず、スタート直後にバランスを崩し、転倒寸前のところで立て直し、なんとか完走できました。2本目、翌日の **World Cup** も2本とも完走することができ、第1の目標は達成することができました。ただし、4本滑走することができましたが、**World Cup** のコース設定に4本とも対応することができませんでした。**World Cup** は、日本で行われている大会の規模とあまりに違うものでした。今回の **World Cup** を通じて、私自身が感じたことを5点記載します。

① 滑走距離の違い

今回の **International Cup** は、コースの距離285m、ゲート数45であり、**World Cup** は、コースの距離280m、ゲート数46でした。滑走距離の長さ、ゲート数のスケールが日本とは違いすぎて、自分の体力では最後まで脚力が持たなかったことも事実です。フィジカルトレーニング不足と思い知った瞬間です。

② 滑走斜面

滑走斜面についても、やはり、日本のどの大会より急に感じました。一定の斜度でしたが、滑走距離が長いため、徐々にスピードが加速していく感じがしました。よって、ちょっとした癖が、ウィルのずれに繋がり、結果、タイムロスしてしまうことになりました。やはり、悪い癖は直さない！再確認させられた瞬間です。

③ スタート台

また、スタート台は、高さ約2m、傾斜約40°、滑走距離約4mを滑るため、今までに体験したことないスピードで、第1ゲートを通すしなければならなく、ゲート間の距離は、日本の大会よりもありましたが、次から次へとゲートが迫ってくる感じがしました。自分のレベルの低さを思い知った瞬間です。

④ トップ選手

トップ選手は、スタンスがクローズスタンスで、切り替えが非常に早かったことに驚かされました。体格については、日本人よりも大きい人がほとんどでしたが、驚くことにトップクラスの選手でも日本人と同程度の体格の選手もいました。日本人でも表彰台に立てると感じた瞬間です。

⑤ ジュニア選手

International Cup では、小学生低学年のジュニア選手も同じコースを滑ることに驚かされました。この世代から、世界レベルのコースで大会に参加しているから **World Cup** のトップの選手も育つのだろうと思った瞬間です。

このような背景を踏まえて、**World Cup** に行った選手が **World Cup** のコースを見て規格外と思わないように、日本の大会も **World Cup** レベルの大会を取り入れることも世界に近づける一つの方法かもしれません。

今回、**World Cup** に出場して、私自身、言葉に表せないほど色々な経験をすることができ

ました。この経験を生かして、日本のインラインスキー界の普及発展に努めていきたいと
思います。また、少しでも **World Cup** のトップクラスの選手に近づければと思います。こ
れからの日本のインラインスキーの技術が世界に一步でも近づき、いつの日か日本人が表
彰台に立てればと思います。本当にありがとうございました。

最後に、ナショナルチーム選考会、合宿等の関係者の皆様、**WorldCup** に参戦した海野さ
ん、山川さん、大淵さん、高井さん、本当にありがとうございました。また、がんばりま
しょう！よろしく願いいたします！